

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
昼間部 理学療法 学科	人	人	7人	人	7人	6人	7人	人	人	22人	
計	人	人	7人	人	7人	6人	7人	人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	基礎理化学	15	倉橋 智(オムニバス)	専任
		医療概論	30	鈴木 恒範(オムニバス)	兼任
		コミュニケーション論	15	本持 英児	専任
		心理学	15	井古田 大介	兼任
		人間発達学	8	増田 岳彦	専任
		情報統計論Ⅰ	15	大和田 和彦	専任
		情報統計論Ⅱ	15	大和田 和彦(オムニバス)	専任
		基礎運動学Ⅰ	15	市川 真莉那	専任
		基礎運動学Ⅱ	15	市川 真莉那	専任
		医療基礎統合論	30	倉橋 智(オムニバス)	専任
専門基礎	人体の構造と機能および 心身の発達	人体構造機能学Ⅰ	30	熊澤 真理子	兼任
		人体構造機能学Ⅱ	30	姉帯 飛高	兼任
		人体構造機能学Ⅲ	30	姉帯 飛高	兼任
		人体構造機能学Ⅳ	8	市川 真莉那	専任
		人体構造機能演習	15	倉橋 智	専任

専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	基礎病態論	15	星本 和種・今村 哲夫	兼任
		臨床心理学	15	井古田 大介	兼任
		精神疾患論	15	井古田 大介	兼任
		整形障害論	30	本持 英児	専任
		内部障害論	30	関 良平	兼任
		神経障害論	30	板子 伸子	専任
		発達障害論	15	小松 昌久	兼任
		老年学	15	矢作 浩	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	30	持田 誠	兼任
		多職種連携論	15	大和田 和彦	専任
専門	基礎理学療法学	生活環境論	15	矢作 浩	専任
		運動療法総論	30	矢作 浩(オムニバス)	専任
		基礎理学療法学	15	市川 真莉那(オムニバス)	専任
		臨床運動学	15	本持 英児	専任

専門	理学療法管理学	理学療法管理学	15	大和田 和彦	専任
専門	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	75	倉橋 智	専任
		理学療法評価学Ⅱ	75	増田 岳彦	専任
専門	理学療法治療学	整形障害理学療法Ⅰ	15	矢作 浩	専任
専門		整形障害理学療法Ⅱ	30	矢作 浩	専任
専門		神経障害理学療法Ⅰ	15	板子 伸子	専任
専門		神経障害理学療法Ⅱ	30	板子 伸子	専任
専門		内部障害理学療法Ⅰ	30	市川 真莉那	専任
専門		内部障害理学療法Ⅱ	15	市川 真莉那	専任
専門		物理療法学	23	大和田 和彦	専任

専門		義肢学	15	時田 幸之輔	兼任
専門		装具学	15	増田 岳彦	専任
専門		理学療法技術論	210	増田 岳彦(オムニバス)	専任
専門		理学療法治療学	15	大和田 和彦(オムニバス)	専任
専門		卒業論文	30	板子 伸子(オムニバス)	専任
	地域理学療法学	日常生活活動学Ⅰ	15	倉橋 智	専任
		日常生活活動学Ⅱ	23	本持 英児	専任
		地域理学療法学Ⅰ	8	本持 英児	専任
		地域理学療法学Ⅱ	8	大和田 和彦(オムニバス)	専任
専門	臨床実習	臨床実習Ⅰ	23	増田 岳彦(オムニバス)	専任
		臨床実習Ⅱ	23	増田 岳彦(オムニバス)	専任
		臨床実習Ⅲ	158	増田 岳彦(オムニバス)	専任
		臨床実習Ⅳ	158	増田 岳彦(オムニバス)	専任
		臨床実習Ⅴ	158	増田 岳彦(オムニバス)	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ	2年前期	医療概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		コミュニケーション論	1年前期
臨床実習Ⅱ	2年前期	理学療法評価学Ⅰ	1年通年
		理学療法評価学Ⅱ	1年通年
		人体構造機能演習	1年前期
臨床実習Ⅲ	3年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年通年
		理学療法評価学Ⅱ	2年通年
		基礎理学療法学	3年前期
臨床実習Ⅳ	3年後期	整形障害理学療法Ⅰ	2年後期
		整形障害理学療法Ⅱ	3年前期
		神経障害理学療法Ⅰ	2年後期
		神経障害理学療法Ⅱ	3年前期
		内部障害理学療法Ⅰ	2年後期
		内部障害理学療法Ⅱ	3年前期
臨床実習Ⅴ	4年前期	整形障害理学療法Ⅱ	3年前期
		神経障害理学療法Ⅱ	3年後期
		内部障害理学療法Ⅱ	3年後期
		理学療法治療学	4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	○○理学療法学科・教務課会議内	
委員名（委員長）	○○持田 誠	
組織の開催頻度	1年に一度 以下の状況に応じて随時	
組織の取り組み内容	・毎週会議内にて学生支援、成績状況の確認と検討	
	・毎週会議内にて教材等の教育環境の確認	
	・月に一度ハラスメント委員により学生、実習先、職員間の確認実施	
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://www.aoi.ac.jp/saitama/ ）	

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	理学療法学科 教務会議
	委員構成等	学園長 持田誠 副校長 大和田和彦 理学療法学科専任教員 増田 岳彦 板子 伸子 市川 真莉那 本持 英二 矢作 浩 倉橋 智
	改善の仕組みの実際	毎週の教務会議において各学年の担当から講義の進捗状況や学生の習得状況の報告、情報共有を実施する。 状況に応じてゼミの開催や授業方法の変更を随時行っている。 また、年度末にアンケートを実施し、結果の分析を元に次年度への点検と改善を実施している。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検や第三者評価の結果を共有し、改善が必要な項目について教務課全体で検証を行う。その後、教務課全体で改善案を捻出した後に、実施・点検・再検証のサイクルを繰り返す。
その後も経過を報告・確認し情報共有の元、よりよい環境となるよう報告や相談を教務課全体で継続していく。